

Al Vi Kara

N-ro 101, julio 2011



“Kanko-Boko” (函谷鉾),
fama sankta veturilo



“Tourou-Jama” (蠲螂山), unika
sankta veturilo signifas manton.



Malantaŭ la solena festo laboras
multaj helpantoj.

En julio okazas la fama festo Gion-maturi en Kioto. La plej fama evento en la longa festo estas la ĉirkaŭiro de 32 sanktaj veturiloj nomataj “Jama-Boko”. Fotis KAWAGOE Kan.

☆ ENHAVO ☆

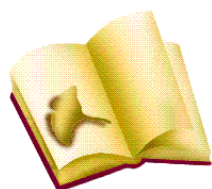
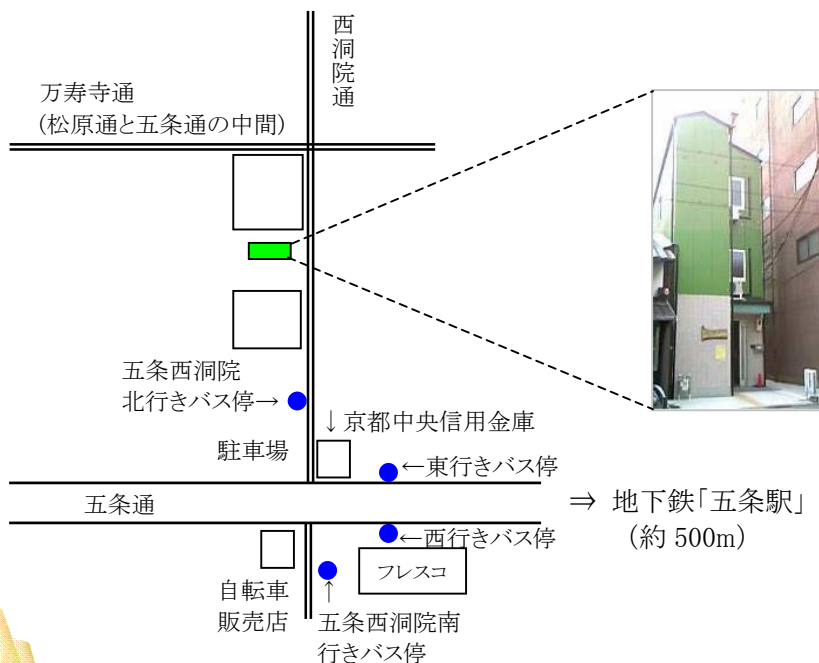
エスペラント会館での会合	3 p
Ni vigle agadas en Kioto ! (活動報告)	
第 42 回エスペラント林間学校への参加	4 p
2010 年 9 月 29 日(水) 例会にイスラエルからのお客様	4 p
2010 年 10 月 2 日(土) 中国古琴についての講演と演奏	5 p
2010 年 12 月 4 日(土) エスペラント祭	6 p
京都エスペラント会 2011 年次総会	6 p
2 月 9 日(土) 例会	7 p
4 月 6 日(水) 例会に中国人のお客様	7 p
6 月 8 日(水) 例会にドイツ人のお客様	8 p
第 59 回関西エスペラント大会への参加	9 p
エスペラント初級講座の報告 (森川和徳)	11 p
京都観光案内 Turismaj informoj pri Kioto (1) (Aikawa Setuko)	16 p
Iu renkontiĝo (MICUKAŬA Sumiko)	18 p
La letero al vi kara (virtuale) (山本鳩江 Yamamoto Nihoe)	20 p
京都エスペラント会会費基金(仮称)の提案 (相川節子)	21 p
ABZ kiel gastigi (4) (TAHIRA Masako)	23 p
El Svedaj leteroj (KAWAGOE Kan)	26 p



La templo Kiyomizu-dera sur la kurba surfaco, desegnita de la pentristo Brian Williams, kiu loĝas apud la lago Biwa-ko. Fotis KAWAGOE Kan en la 14a de majo.

エスペラント会館での会合

名称	日時		内容
子連れ学習会	[休止中] 毎週月曜日	午前 10～11 時半	後藤美和さんが主催。 現在は休止中。
聖書を読む会	月 1 回・第 1 月曜	午後 1～4 時	相川節子さんが主催。参加者は 8 人程度。1 回に 2～3 章ずつ読んでいます。「創世記」を終わり、現在は「エジプト記」。1 回 300 円。
エスペラントおしゃべり会	毎週月曜日	午後 7～9 時	田平正子さんが主催。参加者は 5 名程度。外国人がよく参加されます。費用は 1 回 300 円。
京都エス会 昼の例会	毎週水曜日	午後 2～4 時	参加者は 4 名程度。
京都エス会 夜の例会	毎週水曜日	午後 7～9 時	参加者は 7 名程度。
Rondo Duopo	不定期		藤本達生・ますみご夫妻が指導。内容の濃い学習会。



★ Ni vikle agadas en Kioto ! ★

このコーナーは、京都エスペラント会の月刊の活動情報紙「事務局通信」（川越 幹さん編集）やブログ（http://d.hatena.ne.jp/esperanto_kioto/）の記事を元に、主な活動を紹介するものです。

★ 第 42 回エスペラント林間学校への参加

La 42a Friska Lernejo

第 42 回林間学校は 2010 年 9 月 18 日(土)・19 日(日)に大阪市立青少年センター（通称 ココプラザ、新大阪駅の近く）で開催され、32 人（受講生 25 人、講師や世話役 7 人）が参加されました。

京都エスペラント会からは次の 5 人の方々に参加されました。

小橋良太郎さん、水渡篤子さん、野田淳子さん、高木宣幸さん、相川節子さん

★ 2010 年 9 月 29 日(水)例会にイスラエルからのお客様

Ni havis gaston el Israelo, s-ro Alexander Mikishev. Li estas sciencisto kaj venis al Kioto por partopreni konferencon de fakuloj. En nia kunveno li parolis interalie pri hebreaĵ literoj.

今日はイスラエルからのお客さまを迎えました。学会に出席するため京都に来られたそうです。ヘブライ語の文字について、いろいろ話してくださいました。



相川さん、Alexander さん、田平さん、山本さん、中川さん

★ 2010年10月2日(土) 中国古琴についての講演と演奏

S-ro Bill MAK, studanta en Kioto-universitato, prelegis kaj ludis Gukimon en la galerio "Mint" en Kioto de la 2a ĝis la 4a horo ptm. Aŭskultis 34 personoj, el kiuj estas 10 Kioto-anoj, 9 esperantistoj el aliaj urboj kaj 15 ne-esperantistoj. Lia prelego estis precize aranĝita kaj ludado naskis malaltan belan melodion. S-ino Tahira interpretis, s-ro Kawagoe prezidis, s-ro Nakagawa laboris en la akceptejo, kaj aliaj Kioto-anoj helpis tiun ĉi aranĝon.

京都大学で研究中の Bill MAK さん（博士）の古琴についての講演（エスペラント）と演奏をギャラリー「ミント」（京都市左京区東山二条）で午後 2 時から 4 時まで開催。34 人参加。内訳は、京都エスペラント会会員 10 人、関西各地のエスペラント会から 9 人、一般の方々 15 人。講演はわかりやすく、古琴の音は低くきれいでした。協力者は、通訳を田平さん、司会を川越さん、受付を中川さん、その他の京都エス会会員でした。



★ 2010年12月4日(土) エスペラント祭

Ni havis Esperanto-Feston en la urbo Uzi. Ĝin okazigis tri Esperanto-Grupoj komune: Kioto-Esperanto-Societo kaj Oumi-Esperanto-Societo kaj Uji/Ĵoojoo-Esperanto-Rondo. Kunvenis 22 homoj. Unu el ili estis aŭstralia junulo loĝanta en la urbo Yawata kaj alia unu estas 17-jara franco, kiu venis antaŭ kelkaj monatoj por lerni en japana lernejo en la gubernio Siga. Ni ĝuis lertan prestidigiton, interesan raporton pri la 94a Universala Kongreso, komikan prezentaĵon tradician (noa komedio).

京都エスペラント会・近江エスペラント会・宇治城陽エスペラント会共催の「エスペラント祭」が宇治市で行なわれました。22人が参加。ひとりは、八幡市在住のオーストラリア人の青年 Jonathon Marc Schmidt さん、ひとりは滋賀県の近江兄弟社高校に留学中の17歳のフランス人 Sylvain Alain Coulangue さんでした。出席者は世界エスペラント大会の報告を聞き、会員が演じる手品や狂言を楽しみました。(狂言はもちろんエスペラントで演じられました。)



★ 京都エスペラント会 2011年次総会

・日時：1月30日(日) 午前11時～4時30分

・場所：エスペラント会館

・参加者：会員10人(委任14人)

相川 節子、川越 幹、後藤 美和、小橋良太郎、笹沼 一弘、田平 正子
中川 邦彦、藤本 達生、光川 澄子、森川 和徳(あいうえお順)

・内容

- ① Mia Vojaĝo (小橋 良太郎さん)
- ② 2010年の活動報告と反省 (川越 幹さん)
- ③ 2010年の会計報告 (後藤 美和さん)

④ 役員改選

会長 : 笹沼 一弘
事務局 : 川越 幹
会計 : 中川 邦彦 [新任]
会計監査 : 後藤 美和 [新任]
広報 : 光川澄子、川越 幹
KLEG委員 : 藤本 達生、川越 幹、笹沼 一弘、森川 和徳
会誌編集 : (編集長)森川 和徳、(委員)笹沼一弘、田平 正子

★ 2月9日(土) 例会

En la taga kunveno partoprenis 5 membroj. Ni legadis "Ĉu vi parolas Esperante?", lernolibro verkita de polo. Hodiaŭ ni lernis la lastan lecionon de la libro. Nun ni finis la tutan libron kaj ĝuis la historion. Gratulinde! De la venonta merkredo ni lernos "La Unua Kursolibro". Ankaŭ en la vespera kunveno partoprenis 5 membroj, malsamaj ol en la taga kunveno. En la vespera ni legas "Zamenhof - biografia skizo". Ĝi estas tre malfacila, sed interesa.

昼の例会の出席者は5人。ポーランド人によって書かれた教科書 "Ĉu vi parolas Esperante?" を読んでいましたが、今日最後の章を読み終わりました。これで、1冊全部読み通したことになります。バンザイ！です。

夜の例会の出席者も5人でした。昼間とは違うメンバーですが。夜例会で読んでいるのは "Zamenhof - biografia skizo"、ザメンホフの伝記です。むずかしいけれど、面白い本です。

★ 4月6日(水) 例会に中国人のお客様

En la vespera kunveno partoprenis ĉina esperantistino, s-ino Han. Ŝi estas tre vigla virino. Ni gaje babilis pri diversaj temoj. Inter la temoj estis diferenco de salutoj inter nacioj, diferenco de etiketo ĉe manĝado inter Ĉinio, Japanio kaj Koreio. Post la kunveno ŝi veturis kun s-ro Nakagawa, nia membro, ĉe kiu ŝi gastos hodiaŭ nokte.

夜の例会に中国人エスペ란ティスト、樊 秋菊 (ハン シュウギク) さんが参加されました。とても快活な女性です。いろんな話題でおしゃべりをしました。民族によって違うあいさつのこと、中国と日本と韓国のテーブルマナーの違いについても話しました。例会終了後、今夜の宿である中川さんのお宅へ車で移動されました。



(左から)
川越さん、田平さん、相川さん
中川さん、樊さん、山本さん

★ 6月8日(水) 例会にドイツ人のお客様

Hodiaŭ ni havis gastojn: s-ro Michael Rösser kaj s-ino Tania Petrova, junaj geedzoj en mielvojaĝo el Svislando. Ni parolis pri multaj aferoj: pri UK kaj IJK, pri religio, pri la motivoj de esperantistiĝo, pri la profesio de la edzo kaj tiel plu. Li laboris en Fiat kiel inĝeniero kaj nun vendas partojn de aŭtomobilo. Azia kulturo interesas ilin. Ili vojaĝis kaj vojaĝos en Filipinoj, Japanio, Ĉinio, Kamboĝo... Ni deziras al ili fruktodonajn tagojn.

今日のお客様は、スイスから来られた新婚旅行中の御夫婦。次から次へといろいろな話題が出ました。エスペラントの世界大会や世界青年大会のこと、いろいろな宗教のこと、エスペラントを始めた動機、仕事のことなどなど。夫君は以前技術者としてフィアット社で働き、今は自動車の部品を扱うお仕事をしておられるそうです。アジアの文化に関心があるとのことで、フィリピンの次に日本、これから中国やカンボジアにも行く予定とか。実りある旅でありますように。



(左から)
相川さん、山本さん
Michael さん、木元さん
Tania さん、中川さん
田平さん

★ 第 59 回関西エスペラント大会への参加

La 59a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo

- ・日時 6月18日(土)～19日(日)
- ・場所 神戸市立生田文化会館
- ・京都からの参加者(五十音順、敬称略) 17人
相川節子、川越 幹、笹沼一弘、水渡篤子、田平正子+田平 稔
出口ゆかり、中川邦彦、浪川光代、成田和子、野田淳子、光川澄子
宮本聖子、森川和徳、山内利郎、山本鳩江、吉川奨一
- ・京都エスペラント会会員の活躍
19日午後の野田淳子さんのミニコンサートは素晴らしい迫力で、大いに沸きました。19日午前の田平正子さん恒例のオークションは大変好評でしたが、今回も途中で時間切れとなり、残念でした。

Koncerto de
s-ino NODA



Aŭkcio de
s-ino TAHIRA

En la inaŭguro
S-ro MORIKAWA salutis
anstataŭ la prezidanto de
Japana Esperanto-Instituto.



S-ro Bil Mak ludis pianon
en la Gaja Vespero en la 18a.

En la ferma ceremonio
s-ino AIKAWA, la 3a de dekstre,
estis prezentita kiel vic-prezidanto
de KLEG.



エスペラント初級講座の報告

森川 和徳

1. 成果

(1) エスペラント一日入門講座

日時：4月9日(土) 午前10～12時

会場：エスペラント会館

費用：受講料無料，資料代100円

新規参加者：1人



一日入門講座（左端：講師、右橋：参加者）

(2) エスペラント初級講座（全10回）

日時：4月16日～6月25日

（関西大会の6/18を除く）

毎週土曜日 午前10～12時

会場：エスペラント会館

費用：3600円

受講料10回分+教材費600円

講習生：3人

鈴木金雪(すずき かねゆき)さん

終了後に当会に入会

成 秀珍(ソン・スジン)さん

韓国の若い女性

Feličaさんの娘さん

ビザの関係で6/11まで参加

陳 亮林さん

台湾の若い男性、

ビザの関係で5/28まで参加

テキスト：La Unua Kursolibro 1～12課修了



4/30の初級講座（右側3人：講習生）

(3) 共通項目

主催：京都エスペラント会

後援：財団法人日本エスペラント学会

一般社団法人関西エスペラント連盟

講師：森川 和徳（京都エスペラント会）



2. 内容

(1) 計画

他のエスペラント会の初級講習会は土日に開催されることが多いですが、京都エスペラント会の初級講習会（複数回実施）は土日に開催されたことがありません。そこで、今回は、土曜日の午前中に開催し、新しい講習生の参加を待ちました。

土曜日の午前中であれば、部屋代が安いのも魅力です。

(2) 広報

①チラシの作成（担当：森川和徳）

両面印刷。14 頁をご覧ください。インクジェットプリンタでの印刷では両面印刷用紙を使用しました。

②マスコミ発送（担当：光川澄子さん）

マスコミ	発送日	方法	掲載
週刊金曜日	3月8日	メール送信	掲載
朝日マリオン：「A+1」編集部	3月11日	封書で郵送	(不明)
朝日新聞社 大阪本社、京都総局、大津総局	3月17日	封書で郵送	(掲載なし)
毎日新聞社 大阪本社、京都支局、大津支局	3月17日	封書で郵送	(不明)
京都新聞社：京都本社	3月17日	封書で郵送	(不明)
読売新聞社：京都支局	3月17日	封書で郵送	(不明)
産経新聞社；京都支局	3月17日	封書で郵送	(不明)
リビング京都	3月17日	封書で郵送	(不明)

※京都新聞もここ数年前から、掲載前に主催者への問い合わせがあるようですが、今回は問い合わせがなかったため、京都新聞にも載らなかったと思われます。

③チラシ(14 頁参照)の配布先（担当：光川澄子さん、田平正子さん）

- ・ H様：北区新町今宮通り下る
- ・ えびすやパン店様：北区大宮通り北大路上る
- ・ 光川宅門扉
- ・ 京都YWCA
- ・ 京都府国際交流センター
- ・ 京都自由大学

④案内はがき（チラシの表面と同じ内容、担当：森川和徳）

4月2日に26枚発送。

(3) 毎回の参加者

	月日	参加者（敬称略）			内容
		Lernantoj	Helpantoj	Gastoj	
0	4/9	1 鈴木	4 田平夫妻、川越、他	0	入門講座 エスペ란ティストの紹介
1	4/16	3 鈴木、Son、Ryo	2 村上、田平	0	La Unua Kursolibro Leciono 1-2
2	4/23	2 Son、Ryo	2 村上、光川	0	Leciono 3-4
3	4/30	3 鈴木、Son、Ryo	3 村上、光川、野田	0	Leciono 5-6
4	5/7	3 鈴木、Son、Ryo	3 村上、光川、川越	0	Leciono 7-8
5	5/14	1 鈴木	2 村上、光川	0	Leciono 7-8 復習
6	5/21	1 鈴木	2 村上、光川	0	Leciono 9-10
7	5/28	3 鈴木、Son、Ryo	0	1 岡部（注2）	Leciono 9-10
8	6/4	1 鈴木	2 村上、山内	0	Leciono 11
9	6/11	2 鈴木、Son	3 村上、山内、田平	2 岡部 Lee（注3）	Leciono 11-12
10	6/25	1 鈴木	2 村上、川越	0	Leciono 1-12 復習

注1）講師（森川）は欠席なし。

2）J E J（日本青年エスペ란ティスト連絡会）代表

3）講習生 Son さんのお母さん。韓国のエスペ란ティスト Feliça。

ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO

世界の人々をつなぐ言葉

エスペラント語講座のご案内

(一日入門講座と初級講座)

エスペラント一日入門講座

日時：2011年4月9日(土) 午前10時～12時

会場：エスペラント会館 (車椅子対応)
(京都市下京区西洞院五条上る/地下鉄・五条駅から西へ500m、市バス・五条西洞院)

費用：受講料無料、資料代100円

内容：エスペラント語について一からの説明

↓

エスペラント初級講座 (全10回)

日時：2011年4月16日～6月25日 (6/18を除く)

毎週土曜日 午前10時～12時

会場：エスペラント会館 (車椅子対応)
(京都市下京区西洞院五条上る/地下鉄・五条駅から西へ500m、市バス・五条西洞院)

費用：3600円 (受講料10回分+教材費600円)

内容：エスペラント語の初級講座

主催：京都エスペラント会
 後援：財団法人日本エスペラント学会、一般社団法人関西エスペラント連盟
 講師：森川 和徳 (京都エスペラント会)
 問合せ・申込み先：
 京都エスペラント会 電話・FAX 075-343-3120 (エスペラント会館、あいかわ)
 電子メール esperanto_kioto@yahoo.co.jp

ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO

ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO

会場への地図

貸会議室「エスペラント会館」
エレベーター
車椅子用トイレ有り

〒600-8465
京都市下京区西洞院五条上る
八幡町 537-6
電話・FAX 075-343-3120

交通
京駅前から
90系統「北野天満宮、立命館
大学行き」に乗り、
「五条西洞院」で下車。

阪急大宮駅から
東へ少し歩いて四条堀川で
50系統「京橋駅行き」に乗り、
「五条西洞院」で下車。

エスペラントとは？

エスペラントは、世界中の人々が自由に平等に意思疎通ができることを目的で創られた国際語です。ポーランドの眼科医、ザメンホフ (L.L. Zamenhof) が創案し、1887年に発表されました。エスペラントは、ヨーロッパの言語を元にした、発音や文法は規則的に割り当てられており、英語等に比べて習得が容易です。エスペラントの利用者は世界120カ国以上にわたり、おおよそ100万人がエスペラントを使用して国際交流を行っています。エスペラントは Esperanto (希望する人) という意味です。

エスペラントはどんな言葉？

★ エスペラントの単語はヨーロッパで広く使われている単語から選ばれていますので、エスペラントを知らない人でも次の単語が何の意味か当てがえます。単語の読み方はローマ字読みで近く発音的。アクセントは必ず後ろから2番目の目にあります。

単語	homo	libro	pano	libro	belo	havas
意味	人間	本	パン	美しい	美しい	持つ

★ 名詞の語尾は o、形容詞は a、副詞は e で終わります。
(例) belo (ベーロ) 美、bela (ベーラ) 美しい、bele (ベーレ) 美しく

★ 動詞の現在形は as (アス)、過去形は is (イス)、未来形は os (オス)
(例) amas (アーマス) 愛する、amis (アーミス) 愛した、amos (アーモス) 愛するだろう

ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO ESPERANTO

La Unua Kursolibro の練習問題は難しいので、穴埋め問題の復習用紙を作成し、復習に使用しました。

Ekzercoj por Leciono 9 (naŭ) kaj 10 (dek)

1. Ki-

	<日本語>
() vi estas?	どなたですか？
() tio estas?	何ですか？
() libron vi havas?.	どんな？ (対格)
() vi loĝas?	どこに？
Kun () vi loĝas?	どなたと？ (複数)

2. plus

Mi loĝas en () tiu urbo.	この～
Vi laboras en fabriko () komputiloj.	～の～
Mia patro laboras () frua mateno.	～から
Li estas specialisto () aŭtomobiloj.	～に関する～
Mia patro laboras () multe.	～過ぎる
Mia frato estas () 19-jara.	まだ

3. -as

Mi () kun miaj gepatroj.	住む
Mi () en fabriko.	働く
Mi () al la hejmo.	恋しい
Mia patrino () pri multaj infanoj.	世話する

4. -o

Mi studas la francan ().	文学
Mia () estas 19-jara studento.	兄弟

Mi loĝas kun miaj ().	兄弟姉妹
Vi laboras en fabriko de ().	コンピューター
Mi laboras en komerca ().	会社
Mia patro havas 55 ().	年(対格+複数)
Mia patro estas () pri aŭtomobiloj.	専門家
Mia patrino laboras en elementa ().	学校
Ŝi laboras de ĉi tiu ().	春

5. -a

Mi studas la () literaturon.	フランスの(対格)
Mi laboras en () firmo.	商業の
Mia frato loĝas en () urbo.	近い
Mia fratino loĝas en () urbo.	遠い
Mia patro laboras de () mateno.	早い
Li laboras ĝis () vespero.	遅い
Mia patrino laboras en () lernejo.	初級の
Mia frato estas 19-() studento.	年の

6. -e

Mi ne skribas al miaj gepatroj ().	長く
La patro laboras () ĝis malfrua vespero.	しばしば

7. Numero

55 () kvin	
1887 ()() () sep	
2016 ()() () ses	

Ekzercoj por Lecionoj 11a kaj 12a

1. Ki-

	<日本語>
() vi naskiĝis?	いつ？
() daton ni havas hodiaŭ?	何日？
() tago de la semajno estas hodiaŭ?	何曜日？
() da kursanoj estas en ĝi?	いくつ？

2-1. -as

Mi atente () la gvidanton.	聴く
Li () en la domo.	(横になって) 休んでいる

2-2. -is

Esperanto () en 1887.	誕生した
(Al) sepcent alilandanoj.	やって来た
Mi () nian lingvon en aprilo.	学び始める
Ni ().	会話した
Li ().	テレビを見た

2-3. -iĝi

Unu kursano ().	病気になった
Li (re) .	健康になる

3. -o

Universala () de Esperanto	大会
Ĝi estis en ().	東京
Venis sepcent ().	海外の人々

Ili loĝas malproksime de nia ().	国
La kongreso havis 5946 ().	大会参加者
Esperanto naskiĝis en la 26a de () 1887.	7月
Kiun () ni havas hodiaŭ?	日付
Kiu tago de la () estas hodiaŭ?	週
Hodiaŭ estas ().	土曜日
Mi eklernis nian () antaŭ du monatoj.	言語を
Li aŭskultas Esperantajn ().	録音テープを

4. -a

Mi naskiĝis en la () tago de aŭgusto.	最初の
Esperanto naskiĝis en la () de julio.	26日
ses () kursanoj	男性の

5. -e

Mi () aŭskultas la gvidanton.	注意深く
--------------------------------	------

6. plus

Mi naskiĝis () la unua tago de aŭgusto.	～に
Ili loĝas malproksime () nia lando.	～から
Kiom () kursanoj estas en ĝi?	～の

7. Numero

72 () du	
1887 ()() () sep	
5946 ()() () () ses	

京都観光案内 Turismaj informoj pri Kioto (1)

Aikawa Setuko

京都市に来られる外国人エスペランティストの役にたちそうな観光案内を、今号から連載します。

次のように区域を分けて書くことを考えています。ある程度まとまったら、京都エスペラント会として、ネットに公表するのもいいと思います。

- (1) 京都駅とその周辺
- (2) 西北エリア (金閣寺、龍安寺、嵐山など)
- (3) 中央エリア (御所、京都国際マンガミュージアム、新京極、錦通りなど)
- (4) 西南エリア (桂離宮など)
- (5) 東北エリア (銀閣寺、哲学の道など)
- (6) 東エリア (清水寺、円山公園など)
- (7) 東南エリア (三十三間堂、国立博物館、東福寺など)
- (8) 南エリア (城南宮、稲荷大社など)

それでは、まず京都駅のことから・・・

rimarko: la informoj povas esti ne aktualaj.

(1)-a Stacidomo Kioto

Stacidomo Kioto estas la plej granda stacidomo en Kioto. Kvar fervojaj kompanioj uzas ĝin: JR-Nishinippon [ŝejaar niŝi-nippon], JR-Higashi-nippon [ŝejaar higaŝi-nippon], Kintetsu [kintecu], Metroo de urbo Kioto (en la japana, kjooto-ŝi ĉikatecu).

En la domo troviĝas instalaĵoj necesaj por funkcioj de fervojoj: 18 kajoj, pli ol dek biletkontrolejoj, oficejoj.

Cetere troviĝas ankaŭ instalaĵoj, kiuj ne rekte rilatas al la funkcio de fervojo: hotelo, teatro, magazeno, restoracioj kaj vendejoj.

En la etaĝo du (etaĝo unu, laŭ eŭropa esprimo) troviĝas informejo por turistoj, kiu funkcias de 8:30 ĝis 19:00. En la etaĝo 9 troviĝas Internacia Centro de la gubernio Kioto. En la Centro oni povas uzi interreton kontraŭ pago de 100 enoj dum 15 minutoj. Ĝi funkcias de 10:00 ĝis 18:00, kaj estas fermita en la dua kaj kvara mardoj kaj en festotagoj.

La stacidomo havas 11 etaĝojn. Ĝi aspektas kvazaŭ muro etendiĝanta oriente-okcidente. En la okcidenta parto oni povas stari sur la tegmento. Tie oni povas rigardi la tutan urbon. La strukturo de la domo, kun granda ŝtuparo kaj aera koridoro, estas interesa.



Stacidomo Kioto



Turo de Kioto

(1)-b Turo de Kioto

La turo troviĝas en la norda flanko de la stacidomo trans strato. Oni povas iri al 100-metra alteco per lifto. Tio kostas 770 enojn. La lifto funkcias de 9:00 ĝis 21:00.

(1)-c La suda flanko de la stacidomo

Se vi atingas frumatene la stacidomon, ekzemple per nokta aŭtobuso, viziti la sudan flankon estas pli oportune. Tie troviĝas kelkaj manĝejoj kaj vendejoj, kiuj funkcias tagnokte. Retan kafejon oni trovas en la suda flanko.

(1)-d Higashi-Honganji [higaŝi-honganĵi]

Ĝi estas budhisma templo kaj troviĝas tre proksime al la stacidomo Kioto. La fondinto, fame konata bonzo nomata Shinran [ŝinran], forpasis antaŭ 750 jaroj kaj la kredantoj nun okazigas diversajn eventojn, kio daŭros ĝis januaro 2012.

Iu renkontiĝo

MICUKAŬA Sumiko

Ĉi tiu renkontiĝo okazis al mi en la 22a de aprilo 2011.

Ĉitage en Unrjuuin (雲龍院), filia templo (別院) de budhista ĉeftemplo Senjuzi (泉涌寺) en orienta montaro de Kioto, oni okazigis benefican koncerton pro okarinisto Sooziro (宗次郎) por trodamaĝita tertremejo Toohoku. Mi frue aĉetis la bileton.

Mi planis iom frue atingi la templon por trankvile spiri ties klaran etoson antaŭ la koncerto.

De bushaltejo mi malrapide alsupris longan vojon al pinto de la montaro, kie la templo staras. Sur la vojo ambaŭflanke staras kelkaj branĉaj temploj (塔頭) de la ĉeftemplo. Unu el tiuj Kajkoozi (戒光寺) malfermis la pordon sur ŝtona ŝtuparo.

Antaŭ la ŝtuparo staris longa gvidtabulo skribita Ŝakanjorajo (釈迦如来). Dum momento miaj okuloj fiksiĝis al la literoj. Sed miaj pluraj paŝoj preterpasis la gvidtabulon. Do iu returnis min kaj mi senhezite eniris en tiun nevastan preĝejon.

Mi preĝis antaŭ ofermona kesto kaj restis tie. Ĉar en interno malantaŭ la kesto staras la zjooroku (丈六) Ŝakanjolajo fare de Unkej (運慶) kaj Tankej (湛慶). Sed de ĉe la kesto vidi la malluman internon estis malfacile.

Tiam mian dorson atingis voĉo de s-ino el akcepteja ĉambreto.

"Bonvolu libere iri pli antaŭen kaj vidu la Budhostatuon."

Laŭ ŝia rekomendo mi iris tuj antaŭen de limbarilo.

Ho, kiel tre altega, realeca kaj majesta! Mi estis imponita de la trosoleneco. Mi vidis la vizaĝon, tiam samtempe senkonsciaj larmoj ekfluis el miaj okuloj. Kaj mi sentis min kiel mi estis travidita per la silentaj okuloj kaj rektigis mian dorson.

Ŝia voĉo ree aŭdeblis,

"Vidu la fingrojn kun longaj ungoj."

Mi atente rigardis ĉiujn fingrojn. Jes, certe! Mi neniam renkontiĝis kun tia rara Budhostatuo kun longaj ungoj.

Ŝi daŭrige klarigis signon de la ungoj tiel, ke la manoj pligrandigitaj per la longaj ungoj simbolas senfinan amon de la Budho, kiu plenplenas de profunde ga kompatemo. Nome per la manoj helpi kiel eble plej multe da ĉiuj en la universo.

Plie la Ŝakanjolajo havas nekredeblan legendon. Tiu diras, ke Gomizunoo-tennoo (後水尾天皇) nokte estis murdota, tiam la Ŝakanjolajo helpus lin kiel anstataŭulo. Nigra makulo ĉe la gorĝo estus tiama postsigno de la sango.

Ŝajnas, ke la mistera legendo ankoraŭ nun tradicie kaptadas multe da kredantoj al la Ŝakanjolajo.

Poste mi rememoris iam aŭdintan parolon el radiodissendo: Budhostatuo de budhoskulptistanoj Kej-skolo (慶派) estas realecaj. Jes, ankaŭ tre unika kaj realeca skulptaĵo de Kuuja-ŝoonin (空也上人) estis faraĵo de la kvara filo de Unkej.

Kiu gvidis min al la Ŝakanjolajo? Kion signifas al mi ĉi tiu renkontiĝo?
Ĉiaokaze sperto de ĉi tiu renkontiĝo kare restados en mi.

(fino)

[20 参より]

Apenaŭ kleruloj senkonscie mobilizas junulojn al la solidareca aktivado, tamen ankoraŭ ne rimarkinte la plej gravan ŝlosilon kiun Vi la unua el ĝis-tiatempe aperintaj homoj seniluziiĝis kaj vekiĝis pri la frateco de la homaro kaj sekve de tio ke ni zorgu unu la aliajn kvazaŭ laŭ interrilate al la efektivaj gefratoj.

Sincere de via japana Esperantisto

(fino)

La letero al vi kara (virtuale)

山本 鳩江 (Yamamoto Nihoe)

Pri la nomo de la periodaĵo, laŭ mia persona flanko, tiu “vi” signifas la kreinton de nia lingvo, d-ro Esperanto. Povus esti la diversaj objektuloj pri tiu “vi” laŭ la legantoj. Iuj diras, ke la adjektivo “kara” devus esti uzata por la ordinarulo intime konata aŭ ne tiel konata simple kiel la deca maniero de la komenco de la letero aŭ alvoka okazo, kaj tiu uzado de “kara” ne estas taŭga por la gravulo, sed la adjektivo “estimata” kun la plej granda sincereco estus des pli taŭga por la Doktoro.

Tamen tio supre levata ne gravas kiu estas tiu “vi”, kaj estas dispone laŭ-plaĉe lasata al la leganto mem. Cetere mi levis mian penson pri tiu “vi” por la diskuto-celo, sed por la preter-vole la naiva demando aŭ por senintence komenca ekskribo laŭ la tempo-fluo. Ja rezulte de tio, mi sube de la ĉielo skribu leteron al la estimata L.L.Zamenhof, D-ro Esperanto loĝ-us-anta en la ĉielo kiel unu el aktivaj anĝeloj pro sia sin-dediĉa kontribuo pri la unua paŝo de la rekonigo al ni malnaivaj scienc-aĉ-fidemaj la inter-fratecon de homaro sub la potenco de Dio pere de la ideo kaj esenco potencie interne enhavata de Esperanto. Do, mia letero al la por ĉiama-lingvon-re-unuig-esperanta anĝelo, Lazaro Ludoviko Zamenhof:

Plej estimata s-ro Esperanto kun la supontanea dankvortoj al Vi kara.

Mi nomiĝas Yamamoto Nihoe loĝanta en Japanio fore estanta de via patrujo Litovio. Kiel vi kompreneble jam vidas de supre de nia Japanio kiel la miniatura lando de tutlandaro en la mondo, lastatempe en Japanio okazis la damaĝo-post-restinta tertremo laŭ la mar-bordaj regionoj en ĝia orienta parto. Je ĝis-nun ne imagebla afero, iu prestiĝa profesoro sur la filozofio en la universitato de Havard, okaze de la kunveno de la studentoj proponis tion, ke ni solidarece subtenu la japanajn damaĝitojn de la tertremo kaj sekve de ĝi difektiĝo de la atom-centralo kiel la mond-civitana tasko kaj por tio pli efike ol la Unuiĝintaj Nacioj ni kunaranĝu la mondo-organizon kunligitan de la bontrovoj de ĉiu homo k.t.p, malgraŭ ke tiu proponanta profesoro en si mem ne scias kial sole al japanoj tiu instigo-agitado fontigis ĉe sia penso.

[19 下へ続く]

京都エスペラント会会費基金（仮称）の提案

相川節子

情報はインターネットで十分だけれど

今、会員がしだいに減少しているエスペラント会が多い。それに伴って、関西エスペラント連盟の会員数も、毎年じわじわと減少している。

ただし、エスペラントを使う人がこの地域で減ったわけではないと思う。

以前なら、いつどこで大会や合宿があるとか、どんな本が発行されたかとかの情報は、どこかの組織に加入していないと入手できなかった。でも今はインターネットで何でもわかる。どこの組織にも入らずひとりで学習し、疑問があればネット上のサイトで知識を得たり質問サイトで答えを求めたりする人が増えていることは、容易に想像できる。

しかし、辞書をはじめとするエスペラント書籍の大半は、しっかりしたエスペラント組織があればこそ出版が可能になる。大会や合宿などの行事も、組織があり、その組織の中で献身的に活動する人がいてこそ成り立つ。インターネットのサイトにしても、一般に個人のサイトよりも組織が運営するサイトの方が内容も信頼できるし、更新もタイムリーだ。そしてそれらの団体の活動には、もちろんサイトの運営も含めてだが、会員が支払った会費や寄付金が使われている。「インターネットで何でもわかるのだから、組織は必要でない」というのは間違っている。組織が活動しているからこそ、インターネットで信用ある情報が得られるのだ。ネット時代であっても、エスペラント組織の維持は必要不可欠と思う。

経済的事情による会員減を防ぐ手段としての基金を

一方、今の日本には、まじめに働いてきたのに派遣切りにあったとか、過労で健康をそこねて職を失ったとか、年金制度の不備のせいで生活が苦しいとかいう人がたくさんおられる。

京都エスペラント会で誰かが退会するとき、その人がエスペラントに興味がなくなったのなら、あるいは他のことで忙しくて、生活の中でエスペラントの比重が小さくなったのなら、これはしかたがない。でも、エスペラントを続ける気持ちはあるのに経済的な理由で退会されるのなら、残念すぎる。そういう理由で会員の数が減るのはくやしい。

そこで、寄付によって基金をつくり、そういう人たちの会費を肩代わりできないかと思うようになった。

目的は個人への援助ではなく、京都エスペラント会の会員減を防ぎ、会員を増やすことによる会の活性化である。経済的理由で入会をためらっている人がおられたら、入会し易い状況をつくり、また経済的理由で退会する人をなくして、組織の維持に役立てたい。

具体的なやり方（案）

まだわたしの頭の中にあるだけの案だが、次のようなやりかたを考えている。

- (1) 基金の世話役を数人決め、そのうちひとりを会計担当者とする。
- (2) 有志から寄付を集める。金額は自由で、一口いくらという集め方はしない。
(たとえば、本を会員割引で買った時、定価で買ったつもりで差額を寄付するというようなケースもあり得るので)
- (3) 入会・再入会の希望者、あるいは現会員で、基金の利用を希望する人は、世話役の誰かに申し込む。
- (4) 世話役全員で協議の上で、適当と判断したらその人（以下、対象者と称する）の京都エスペラント会会費を基金から支払う。対象者の状況は聞き取りによって世話役が判断する。収入証明や資産状況を示す資料は求めない。
- (5) 世話役は1年ごとに、対象者に基金利用の意志を確認する。
- (6) 基金の収入・支出は京都エスペラント会の年次総会で報告する。ただし、対象者の名前は公表しない。（名前を知るのは会の会計係と基金の世話役のみ）
- (7) 寄付は定期的にはではなく、残金が少なくなった時に随時募集する。基金が解散する場合は、残金を京都エスペラント会またはそれに準ずる組織に寄付する。

ご意見をお願いします

この基金で、ひとりでもふたりでも会員を増やすことができないだろうか。

対象者の範囲であるが、現会員や元会員なら問題はないと思う。しかし、新たな入会希望者については、誰でもというわけにはいかないだろう。京都エスペラント会への入会は、たとえ地球の裏側に住んでいても可能だから、無制限になってしまう。わたしの案では、収入や資産状況について客観的な証明を求めない、つまり性善説に基づいた運営をするので、対象を無制限に広げることにはできない。

京都エスペラント会の活動に参加することを条件にしてはというご意見もあると思う。でも個人への援助ではなく組織の維持を目的とする基金だから、例会や行事への出席、機関誌への寄稿など、個人の活動を条件にするのは筋が通らないと思う。

当面、「京都府または京都府に隣接する府県の住民」を対象にするというのはどうだろうか。具体的には、京都府・福井県・滋賀県・三重県・奈良県・大阪府・兵庫県になる。もし「近畿地方の住人」とするなら、福井県と三重県がはずれ、和歌山県が加わる。

この基金が果たして会員数の維持または会員増につながるだろうか。また、世話役を引き受ける人がおられるだろうか。

ご意見をお寄せいただければ幸いです。

(2011年4月21日)

ABZ kiel gastigi (4)

TAHIRA Masako

(Ĥ) Kiel uzi necesejon?

Kiam mia bopatrino vivis, mi rekonstruis japanstilan necesejon al eŭropstila necesejo, ĉar ŝi ne povis kaŭri pro malsanaj genuoj. Sur la sidejo en la nova necesejo ŝi povis komforte sidi. Ankaŭ eksterlandaj gastoj, kiuj ne al kutimiĝas al la japana tradicia necesejo, povas facile uzi.

Krome ŝprucas varma akvo post puŝo al butono kaj purigas kaj piĉon kaj anuson. Ankaŭ vento blovas por sekigi la malsekigitajn partojn. Al alilandaj gastoj mi instruas kiel funkciigi la necesejon per butonoj laŭ iliaj bezonoj, ĉu akvo varma aŭ malvarma, ĉu forta aŭ malforta.

Kio alia gravas? Kiel fluigi akvon post urinado aŭ fekado ne per la butonoj, sed per tenilo de supra akvujo. Iuj maltrankviliĝas, ĉar kiam ili puŝas la tenilon, akvo fluigas la malpuraĵojn malsupren en kloakon, sed samtempe aŭtomate en la akvujo venas nova akvo, per kiu laveblas manoj. Timemaj gastoj miskomprenas, ke la akvo fluo ne haltas pro ilia misuzo. Ne! Trankviliĝu, ĉar baldaŭ aŭtomate ĉesos la akvo fluo, se la akvo sufiĉe eniros en la akvujo.

Kiam irana esperantisto venis unuafoje al Japanio, mi estis por li la unua gastiganto. Konsternite de la necesejo li tuj raportis al siaj amikoj, ke japana necesejo havas komputilan sistemon.

Alia atentigo. Gastoj el iuj landoj, en kiuj ne perfektas kloaka sistemo, kredas, ke ĉiaj objektoj foriros kun fluanta akvo. Ne! Nilonaj saketoj, higiena kotonaĵo por virina monataĵo ne degelas en akvo kaj ŝtopas kloakon. Ilin forĵetu en la apartan rubujon en la necesejo. Koreoj enmetas uzitan necesejpaperon en la rubujon, ĉar ili bone scias, ke iuj necesejpaperoj en sia lando ne degelas en akvo. Ankaŭ mi ne fluigas necesejpaperon kaj enmetas ĝin en la rubujon por ŝpari akvon.

La necesejo en la hejmo estas la plej malstreĉiga ĉambreto. Sur la muro pendas bela kalendaro farita de s-ro Hori Jasuo kun multe da esperantaĵoj tra la tuta mondo. Ankaŭ monddiagramo kaj afiŝo kun monda historio surmuraj ne enuigas sidanton. En dosierujoj surmure troviĝas ŝatataj libroj (miaj) kaj gazetoj pri amataj trajnoj (de mia edzo). Sidante en la necesejo ni ĝuas plezuron tempon. Ĉu mia rakonto aĉe odoras? Niaj nazoj ne doloras kaj niaj okuloj adoras kaj laboras legi librojn kaj gazetojn.

(I) Kiel uzi banejon?

Ĉe ni la banejo kaj la necesejo apudas per komuna pordo. Kiam oni uzas la necesejon, alia ne povas uzi banejon, kaj inverse. Kiam multaj gastoj venas, okazas malordo. Ekzemple hodiaŭ gastas dek tri junuloj, kiuj kunlaboras kun la edzo por aktivado de Ne-Registara Organizo. Kiel dormigi ilin ĉiujn nur per la litaĵoj por tri personoj kaj du dormsakoj, mia kapo doloras.

Kiel funkciigi nevideblan gason sub la bankuvo por varmigi akvon, sufiĉe komplikas, ĉar la sistemo malnovas kaj ne butonon, sed tenilon oni devas manipuli. Unue por la semo de gaso, due por la tuta gaso. Iam iu esperantisto apenaŭ ne fajrigis la banejon. Li pensis, ke la bankuvo samas kiel en hotelo, do li forfluigis varman akvon post baniĝo, ne sciante ke la semo de gaso ankoraŭ funkcias. Mi apenaŭ rimarkis, ke la bankuvo varmiĝas per gaso sen akvo. Se mi ne rimarkus la tutan nokton, kia katastrofo okazus! Al fremduloj oni devas averti pri gravaj aferoj.

Ofte gastoj ne banas sin en bankuvo timante la akvon tre varma, sed duŝas sin ekster la bankuvo laŭ sia komforta varmeco. Mi instalas gasaparaton ekster la banejo por preni varman duŝon laŭ sia dezirata temperaturo tra la akvokrano en la banejo.

Alia avertendaĵo estas, ke la plafonoj de la banejo kaj la necesejo estas tro malaltaj. Ofte gastoj batas sian kapon kontraŭ la plafono. Iam mi havis grandan ŝokon, ke alta gasto el Egiptio rezignis duŝi sin, ĉar li ne povas stari dum duŝo. Jes, ĉe mi alta duŝanto devas sidi aŭ kaŭri.

Atentendas, ke duŝanto aŭ bananto devas fermi kurtenon inter la banejo kaj la necesejo. Se ne, akvo iras en la necesejon kaj necesejpapero malsekiĝas.

Alia atentendaĵo estas surmeti pantoflojn antaŭ la pordo de la duŝejo, kiam oni uzas la necesejon, ĉar la planko de la duŝejo malsekas kaj ŝtrumpetoj malsekiĝas antaŭ ol eniri en la necesejon. Ofte gastoj forgesas demeti la pantoflojn antaŭ la pordo post la vizito al la necesejo kaj iras supren al sia ĉambro en la supra etaĝo. Eble la necesejaj pantofloj aĉe odoras en la etaĝo dua?

Mi praktikas duonnudan baniĝon rekomendate de s-ro Hori Jasuo. Kiam mi sidas longatempe en la bankuvo sub la umbiliko, mi legas la ŝatatan libron el mia dosierujo de la necesejo. Iu diras, ke por legi libron la sango iras supren en la kapon, do iom danĝeras. Ne gravas. Ĉiukaze la sango ĉiam cirkulas de la piedoj ĝis la kapo, ĉu ne? Mi ne kuraĝas kanti dum la duonnudbanado anstataŭ legi, ĉar du najbaroj aŭdas kaj eble ne povas bone dormi dank' al mia kantado. La duŝantaj gastoj kompatindas, ĉar ili ne scias ĝui legadon aŭ kantadon en la bankuvo.

Post duŝado aŭ banado gasto viŝu sian korpon per bantuko servata de mi. Vojaĝanto kutime havas sian bantukon, sed ofte mankas tempo lavi kaj sekigi ĝin. Malpuran kaj malsekan bantukon porti kaj uzi malagrablas, ĉu ne?

Alia problemo ĉe mi. Antaŭ spegulo ĉe manlavejo antaŭ la banejo staras nenia haŭtkremo, nek parfumo, ĉar mi tute ne havas ilin, escepte de kamelioleo por haroj. Multaj miras, ke mi neniel zorgas mian haŭton. Kosmetikistoj avertas, ke sen kosmetikaĵoj haŭto malboniĝas kaj maljuniĝas. Ne mensogu! Ĉiukaze senzorgeco kaj senpageco plaĉas al mi.

(daŭrigota)



Farbitoj

El Svedaj leteroj

KAWAGOE Kan

Nuntempe, aerpoŝta korespondado malpliigis pro disvastiĝo de reta komunikado. Mi unusole korespondas kun la maljunulino en Svedio de antaŭ longe. Do mi prezentas du leterojn pri lingva konflikto en sveda Esperantujo kaj zorgo pri japana tertremo.

N-ro 1

Lingva konflikto en sveda Esperantujo

Ĉu en via E-klubo (asocio) oni krokodilas?! Ĉu gejunuloj montras intereson pri Esperanto en via lando?! pri tiu artikolo suba. «Germain Pirlot»

«Germain Pirlot»

Ĉu oni parolu Esperanton en strategia renkontiĝo pri la estonteco de la asocio de UEA? Aŭ ĉu oni parolu nur nacilingve “por ke ĉiuj komprenu”? Tiu estis unu el la kernaj demandoj, kiuj kondukis al freŝa skismo en la Esperanto-movado de Svedio. Demisiis la reprezentantoj de Sveda Esperantista Junulara Unuiĝo en la estraro de Sveda Esperanto-Federacio. Aliaj reprezentantoj de la pli juna generacio simile esprimis sian plenan seniluziigon pri la “maljunula” movado, dum pliaĝa aktivulo proponis solvi la konflikton per malfondo de la junulara sekcio.

N-ro 2

Zorgo pri japana tertremo

Mi esperas, ke vi kaj via familio ne suferis pro tiu granda katastrofo en via lando. Oni legis en ĉiuj ĵurnaloj pri tio. Tertremoj okazas pli kaj pli en diversaj landoj nuntempe, eĉ en Svedio. Malforta, sed tamen – oni neniam scias.

Mia respondo

Estimata samideano Kristine Fossevall

Koran dankon pro via letero kun bela printempo en Malmo kaj hiacintoj de Penryn en Cornwall.

Ankaŭ koran dankon por via varma zorgo.

En ĉi tiu marto ni subite ricevis ultran grandegan katastrofon. Precipe en gubernio de Mijagi (norda parto de Japanujo).

Nia Kioto ne havis grandan influon rekte, sed malrekte mia gubernio ricevos diversajn malfacilojn, kiel manĝaĵoj, ĝeneralaj prezoj, energioj ktp.

Geologoj ankoraŭ ne povas antaŭdiri precize kie aŭ kiam okazos tertremoj, sed ili pli kaj pli komprenas la internajn mekanismojn de la tero, povas montri la plej riskoplenajn lokojn kaj rekomendi konstrumetodojn taŭgajn por eviti difektojn.

Alie, ni havos “La 59a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo 18-19 junio 2011 en Kobe”. Kansaja regiono formadas kun Osaka, Kioto, Kobe ktp. en okcidenta parto de Japanujo. La temo estas “Azio Plenplena de Enerĝio”. Speciala prelego antaŭdecidiĝas pri “UK 2012 kaj la Esperanta movado de Vjetnamio”. Preleganto estas S-ino Nguyen Thi Phuong.

Sekvante, S-ro Bill M. Mak (ĉino) paroladas pri “la malnova muziko de Ĉinio kaj malnova Kotoo. Mi atendas de nun. Poste mi raportos la cirkostancojn de la kongreso al vi.

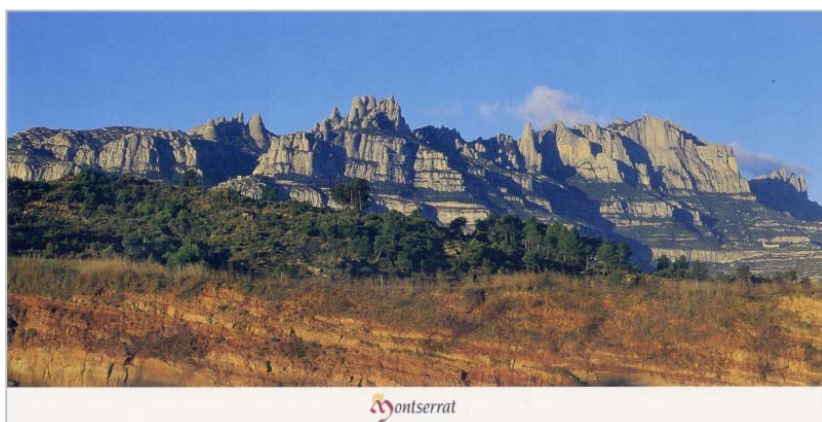
Mi sincere petas vian sanon.

KAWAGOE Kan



La koverta sendita el Svedio

La bildokarto pri la montaro Montserrat





La unuafoja neĝo en 2011 kovris la Oran Pavilionon de la templo Rokuon-ĵi. La blanka neĝo akcentis belecon de la ora muro en kvieta kaj solena atmosfero. Estas feliĉe, se la foto povas malvarmigi vin, kiu vivas en varmeko por ŝpari elektran forton .

(Fotis KAWAGOE Kan.)

Al Vi Kara N-ro 101, eldonita en la 20a de julio 2011

京都エスペラント会 Kioto-Esperanto-Societo

◎事務局

〒600-8455 京都市下京区西洞院五条上る八幡町 537-6 エスペラント会館

電話・FAX : 075-958-2475 (川越 幹)

ブログ : http://d.hatena.ne.jp/esperanto_kioto/

電子メール : esperanto_kioto@yahoo.co.jp

会費 : 正会員 年 7,200 円 準会員 年 3,600 円

Al Vi Kara 購読費 年 1,000 円

ゆうちょ銀行(郵便)振替口座 : 01000-4-9895 口座名 : 京都エスペラント会

◎Al Vi Kara 編集局

連絡先 : 〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町大山崎尻江 13-8 森川和徳

電子メール : kz_morikawa@yahoo.co.jp

ファックス : 075-955-1627

本誌 PDF ファイル保管 : <http://cid-843fe5eeb586235d.skydrive.live.com/summary.aspx>